福童石橋遺跡２

―福岡県小郡市福童所在遺跡の調査報告―

小郡市文化財調査報告書第３６３集

２０２４

小郡市教育委員会

例言

1. 本書は、小郡市福童地内における宅地造成に伴って、小郡市教育委員会が令和４年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の記録である。
2. 遺構の写真撮影は柏原が行った。
3. 遺構の実測、遺物の復元・実測・製図には、担当者の他に上田恵、久住愛子、佐々木智子、宮崎美穂子、永富加奈子、牛原真弓、林知恵ら諸氏に多大なる協力を得た。
4. 遺物の写真撮影は、(有)システム･レコに委託した。
5. 本書の遺構略号は、SD(溝状遺構)、SP(ピット)を用いた。
6. 遺構図中の方位は座標北を示し、図上の座標は国土調査法第Ⅱ座標系に則っている。
7. 遺物･実測図･写真は､小郡市埋蔵文化財調査センターにて管理・保管している。
8. 本書の執筆及び編集は柏原が担当した。

序 文

本書は、小郡市福童における民間宅地開発に先立って小郡市教育委員会が実施した福童石橋遺跡２の発掘調査の報告書です。

福童石橋遺跡２では、中世とりわけ南北朝から室町時代及び近世の溝が発見されました。とくに近世期の溝は、福童地区の旧小字境と合致することから、小字に沿って配された用水路の可能性が考えられます。

小字は、田畑のような耕地、山林、採草地などといった地域社会の経済的な土地のまとまりの最小単位であることが多くみられます。

本書が福童地区の耕地の成り立ちのみならず、小郡における歴史を解明する一助になれば幸いです。

最後になりましたが、調査、整理にあたりご協力いただいた地権者様をはじめ、発掘調査に従事された地元の方々に心から感謝いたします。

令和６年３月３１日

小郡市教育委員会

教育長　秋永晃生

本　文　目　次

第１章　調査に至る経過と組織…… 1
１.調査に至る経過 …… 1
２.調査の経過 …… 1
３.調査組織 …… 1
第２章　位置と環境…… 2
第３章　調査の内容…… 4
第４章　まとめ…… 7

挿　図　目　次

第1図　福童石橋遺跡2周辺の主要遺跡分布図(S=1／25,000) …… 3
第2図　福童石橋遺跡2調査個所位置図(1／4,000)…… 3
第3図　福童石橋遺跡全体図(S＝1／200・S＝1／40) …… 5
第4図　出土遺物(S＝1／4)…… 6
第5図　旧字図と調査区位置図(S＝1／1,000)…… 7

写　真　図　版

図版１　福童石橋遺跡2　調査区全景(真上から) …… 8
福童石橋遺跡2　溝状遺構近景(真上から) …… 8
図版２　福童石橋遺跡2　3・4・5－a・5－b号溝状遺構土層…… 9
6号溝状遺構土層(北から) …… 9
図版３　福童石橋遺跡1・2区(真上から) ……10
調査区遠景(南を望む)……10
図版４　調査区遠景(東を望む)……11
出土遺物……11

第１章　調査に至る経過と組織

１．調査に至る経過

今回の開発事業に関する当該地の事前調査は、令和４年７月 25 日付で「埋蔵文化財の有無について（照会）」（事前審査番号 22063 号）の申請が、開発業者である株式会社Ｃ＆Ｃ代表取締役行武忠孝氏から提出されたことに始まる。これを受けて小郡市教育委員会は令和４年８月８日に確認調査を実施し、掘削予定範囲の一部に遺跡が存在することを確認した。その後、本調査に向けての協議を経て、令和５年１月 13 日付で相手方と埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、発掘調査を実施する運びとなった。

２．調査の経過

調査の対象としたのは、計画された住宅地の中の道路部分の一部（350 ㎡）で、このうち事前審査の結果から発掘調査を実施した面積は 235 ㎡である。現地調査は令和５年１月 30 日に着手し、同年３月 13 日に埋め戻しを含めてすべて終了した。主な経過は以下のとおりである。

令和５年	１月30日	表土剥ぎ開始、溝状遺構を確認。
	２月３日	測量基準点設置。
	２月17日	作業員を入れて、溝状遺構の掘削作業開始。
	２月22日	溝状遺構土層図作成。
	２月23日	溝状遺構掘削作業継続。
	２月28日	空中写真撮影。
	３月２日	１／20 縮尺による全体遺構実測図作成
	３月３日	遺構実測図作成作業。
	３月13日	重機による調査区埋め戻し作業終了。調査区引き渡し。

３．調査組織

令和４～５年度の福童石橋遺跡２における発掘調査に関する組織は以下のとおりである。

〈小郡市教育委員会〉

	教育長	秋永晃生
教育部	部　長	藤吉宏（令和４年度）、熊丸直樹（令和５年度）
文化財課	課　長	杉本岳史
	係　長	山崎頼人
	技　師	龍　孝明（事前審査担当）
		柏原孝俊（発掘調査担当）

第２章　位置と環境

福童石橋遺跡は、市を南北に貫流する宝満川の支流である秋光川の左岸にあたり、西は佐賀県鳥栖市と直線的な県境で接している。周辺部の標高は12m前後を測る沖積台地の縁辺部に位置している。

以下では福童地区周辺に分布する遺跡を中心に歴史的環境の概要を記したい。

旧石器時代については、明確にこの時期の遺構と判断されるものは確認されていない。本遺跡と立地が共通した秋光川の左岸の沖積台地に位置する小郡正尻遺跡ではナイフ形石器が出土しており、ナイフ形石器文化後半期の段階に生活圏としての周辺一帯の土地利用が認められる。

縄文時代では宝満川右岸の低位段丘にあたる大崎井牟田遺跡で石組炉に伴って押型文土器が発見されている。立地を同じくする大板井遺跡群やその周辺で早期に属する押型文土器が散見される。隣接した福童町遺跡４で、鐘崎式の鉢が出土しており、今後この低位段丘上にも後期の遺構が発見される可能性がある。

弥生時代では、寺福童遺跡５で柳葉形の磨製石鏃を伴う前期木棺墓や中期を主体とする甕棺墓群が検出されている。また寺福童遺跡４では、中期の中広形銅戈９本が埋納された状態で確認された。これまでこれらの埋納遺構を形成した集団の墓域や集落域は周辺では未確認で、近隣に所在する拠点集落となる小郡・大板井遺跡群との関連も含めて今後の調査の進展が期待される。

古墳時代に入ると、寺福童地区で初頭から集落が営まれ、墓域としては方形周溝墓４基が検出された寺福童遺跡１が存在する。また、大崎小園遺跡や福童内畑遺跡でも初頭を中心とした集落遺構が検出されて、畿内を中心とした外来系を中心とした古式土師器が多く出土して、小郡地域とこれらの地域の関連性が窺がえる。後期～末では、墓域として寺福童内畑下道東遺跡が確認され、刀子や耳環をともなう土壙墓が確認されている。また寺福童遺跡４遺跡において竪穴住居群が検出されている。

古代では７世紀第３四半期に宝満川左岸に御原郡衙の前身となる上岩田遺跡が成立し、７世紀末には宝満川右岸に小郡郡官衙第Ⅱ期へ移転整備される。さらに８世紀後半には再び宝満川左岸の下高橋官衙に群政機能が移転したと考えられている。官道では、小郡前伏遺跡（12）で、小郡官衙第Ⅱ期郡庁に達する幅6mの道路状遺構が検出されている他、上岩田遺跡、小郡官衙遺跡の南を直線的に走行する東西官道とこれに接続する下高橋官衙までの南北官道も確認されている。また、福童地区の西側に南北の直線的な官道が推定されている。先述した小郡前伏遺跡で発見された官道はこの南北官道から小郡官衙遺跡への短絡路とみられている。官衙周辺では同時期の集落の形成が認められ、官衙と密接に関連した集落や墓地も確認されている。本遺跡に近接した秋光川の左岸に位置する小郡正尻遺跡３では、旧河川の用水路を８世紀後半～９世紀前半に再掘削・再利用している。出土遺物には、「南」「北」など記された墨書土器を含む９世紀前半代の土器が多量に出土している。

中世では、流通倉庫建設に伴って平成３・４年に発掘調査が実施された福童山の上遺跡２・３では掘立柱建物跡１棟と溝が、福童山の上遺跡４で道路遺構や土坑、井戸が検出され、龍泉窯系青磁や白磁が出土している。福童法司遺跡では、下町・西福童16号線道路新設工事に伴って主に中世後半期を主体とした溝状遺構や土坑が確認されている。また、福童町遺跡では、宅地開発及び道路事業によって古代～中世まで方向性の共通した溝状遺構や土坑などが確認され、集落関連遺構が確認されている。

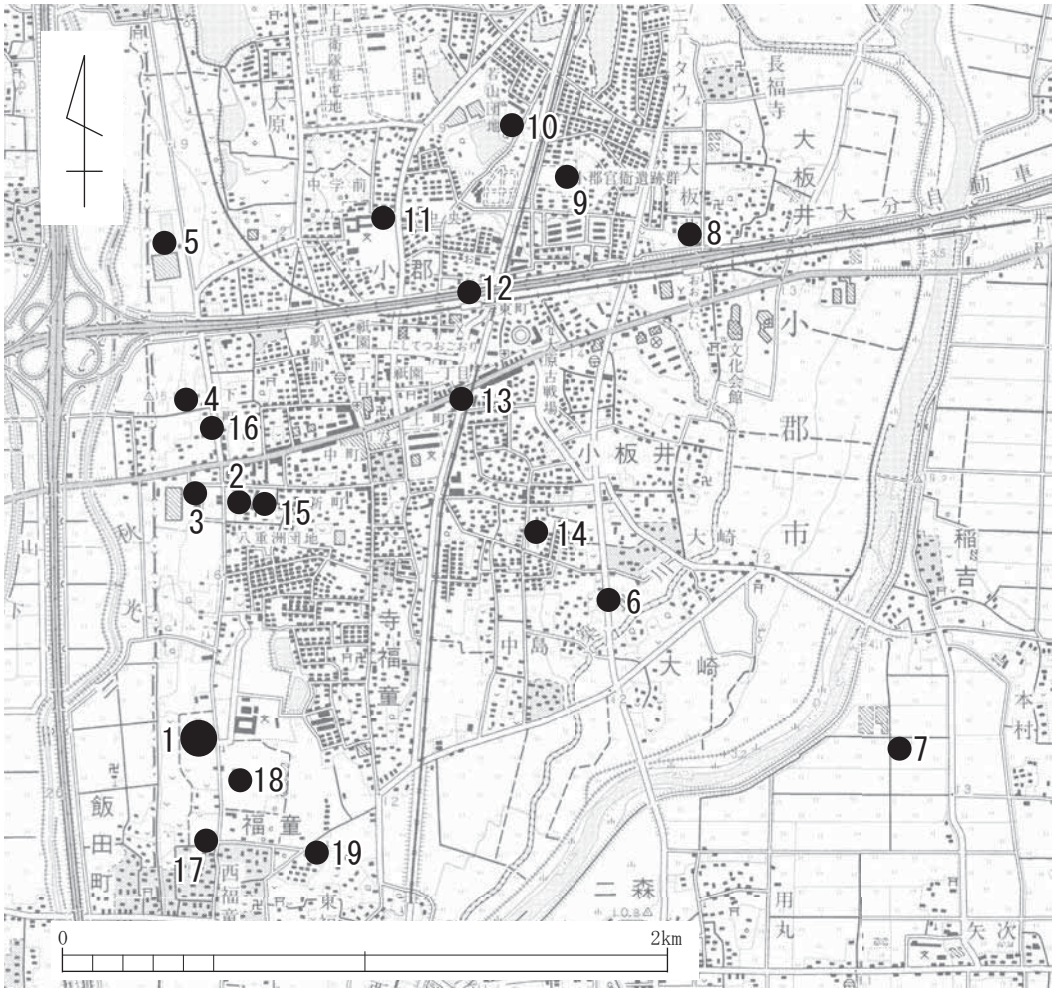
近世の遺構としては寺福童遺跡２で集落域の区画と考えられる溝が検出されている他、佐賀県境に近い福童山ノ上遺跡１においても機能は不明であるが、この時期の溝が確認されている。

このように近年福童地区は各種開発に伴う発掘調査が実施され、市南部の低位段丘から沖積地にかけての発掘調査の成果が蓄積されつつある。

・参考文献

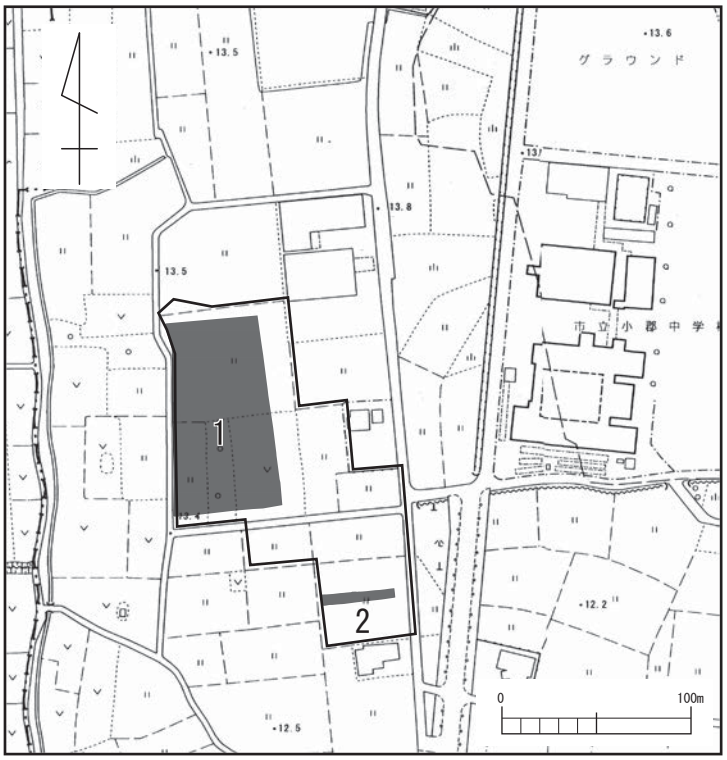
『小郡市史』第一巻　通史編　小郡市史編集委員会　1996

『小郡市史』第四巻　資料編　小郡市史編集委員会　2001



1. 福童石橋遺跡
2. 小郡堂の前遺跡
3. 福童山の上遺跡
4. 小郡正尻遺跡２
5. 小郡川原田遺跡
6. 大崎小園遺跡
7. 稲吉元矢次遺跡
8. 大板井遺跡群
9. 小郡官衙遺跡
10. 若山遺跡
11. 小郡中尾遺跡
12. 小郡前伏遺跡
13. 小板井京塚遺跡
14. 大崎井牟田遺跡
15. 小郡南原遺跡
16. 小郡野口遺跡
17. 福童町遺跡５
18. 福童東内畑遺跡１
19. 福童町遺跡１

第１図　周辺遺跡分布図（S ＝ 1 ／ 25,000）



第２図　遺跡位置図（S ＝ 1 ／ 4,000）

第３章　調査の内容

発掘調査の対象とした範囲は、宅地造成の道路部にあたるため、道路幅員を中心に遺跡が確認された範囲である東西約 39.2 ｍ、南北約 6 ｍの範囲で、面積は 235 ㎡を測る。出土遺構は、溝状遺構 7 条が検出された。6 号溝状遺構を除いた 1・2・3・4・5 － a・5 － b 号溝状遺構の 6 条は北から 65°前後東に傾く共通した走行方位をもつ。6 号溝状遺構は調査区東側を、屈曲しながら南北方向に走行するもので、前者の溝状遺構とは異なる走行性をもつ。

１．溝状遺構（ＳＤ）

1 号溝状遺構（ＳＤ 1）（第 3 図、図版 1・2）

検出された溝状遺構群の北側を走行する溝状遺構で、調査区外へと延びるが、延長 5.20m を検出した。幅 35 cmm、深さ最大 10 cmを測る。断面は逆台形状を呈し、底面は凹凸をなしている。埋土は灰黄褐色土を主体とする。遺物は出土していない。

2 号溝状遺構（ＳＤ 2）（第 3 図、図版 1・2）

調査区西側に位置し､5 － b 号溝状遺構を切って走行する。南西側は調査区外へと延びる。延長で 6.80m を検出している。幅 50 cm、深さ 10 cmを測る。断面は U 字形を呈し、埋土は褐灰色土の単層である。遺物は出土していない。

3 号溝状遺構（ＳＤ 3）（第 3 図、図版 1・2）

2 号溝状遺構の東に連続するように位置する溝状遺構である。5 － a・b 号溝状遺構を切る。北東側は調査区外へと延びる。延長で 7.52m が検出され、幅 50 cm、深さは最大で 16 cmを測る。断面は U 字形を呈し、埋土は褐灰色土の単層で、2 号溝状遺構と形態及び埋土が似ている。遺物は出土していない。

4 号溝状遺構（ＳＤ 4）（第 3 図、図版 1・2）

溝状遺構群の南側に位置し、北東側は調査区外へと延びる。5 － b 号溝状遺構を切る。延長で 9.30 ｍを検出した。幅 85 cm、深さは最大で 32 cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は褐灰色土を主体とする。

出土遺物（第 4、図版 4）

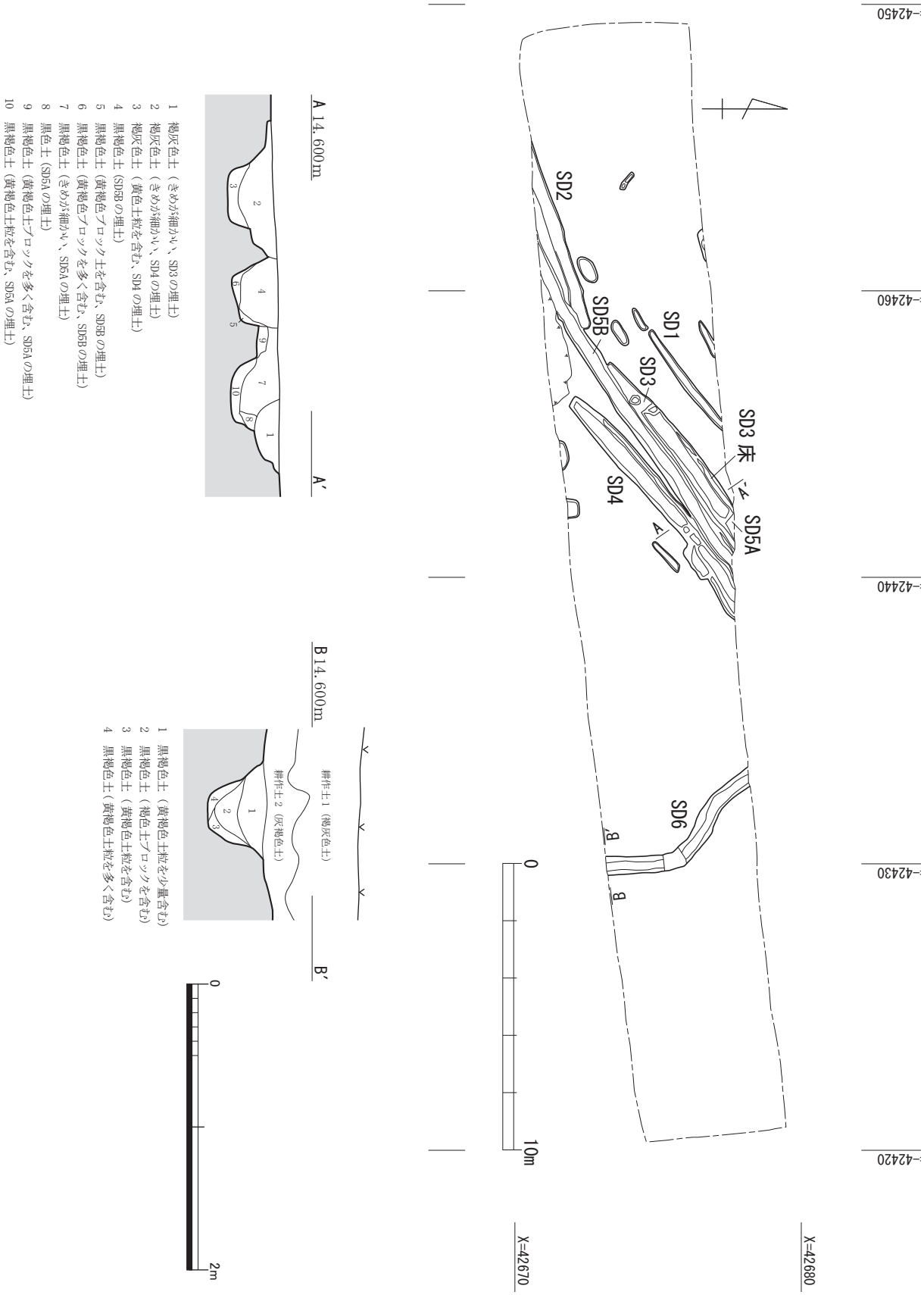
1 は､肥前陶器甕で､口縁部は T 字状をなし､肩が張るタイプ。外面に鉄柚を施す。2･3 は､陶器擂鉢で、いずれも体部の破片。4 は磁器碗で、口径 7.3 cm。5 ～ 7 は磁器皿で、5 は高台を失うが、口径 11.7 cm に復元される。6 は方形の皿で、口径 5.1 cmに復原される。見込みには呉須で蛇の目釉剥ぎが施され、淡赤橙色の花文をあしらう。砂目の痕跡を残す。

5 － a 号溝状遺構（ＳＤ 5 － a）（第 3 図、図版 1・2）

検出当初 1 条の溝状遺構として 5 号溝状遺構として番号を振ったが、土層断面の観察や平面形態から 2 条の溝であることが確認されたため 5 号溝を a･b に分けている。5 － a 号溝状遺構は、3 号溝状遺構、5 － b 号溝状遺構に切られて直線的に走行する。北東側は調査区外へと延びる。延長で 5.80m､幅 70 cm、深さは最大で、35 cmを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は黒褐色土を主体とする。

出土遺物（第 4、図版 4）

7 は、磁器皿の破片で、型打成形である。高台は、蛇ノ目凹形高台となる。見込みには梅花文が描かれ、目痕が 3 か所に見られる。



第３図　福童石橋遺跡２　全体図（S＝１／200）・土層図（S＝１／40）

5－b号溝状遺構（ＳＤ５－b）（第３図、図版１・2）

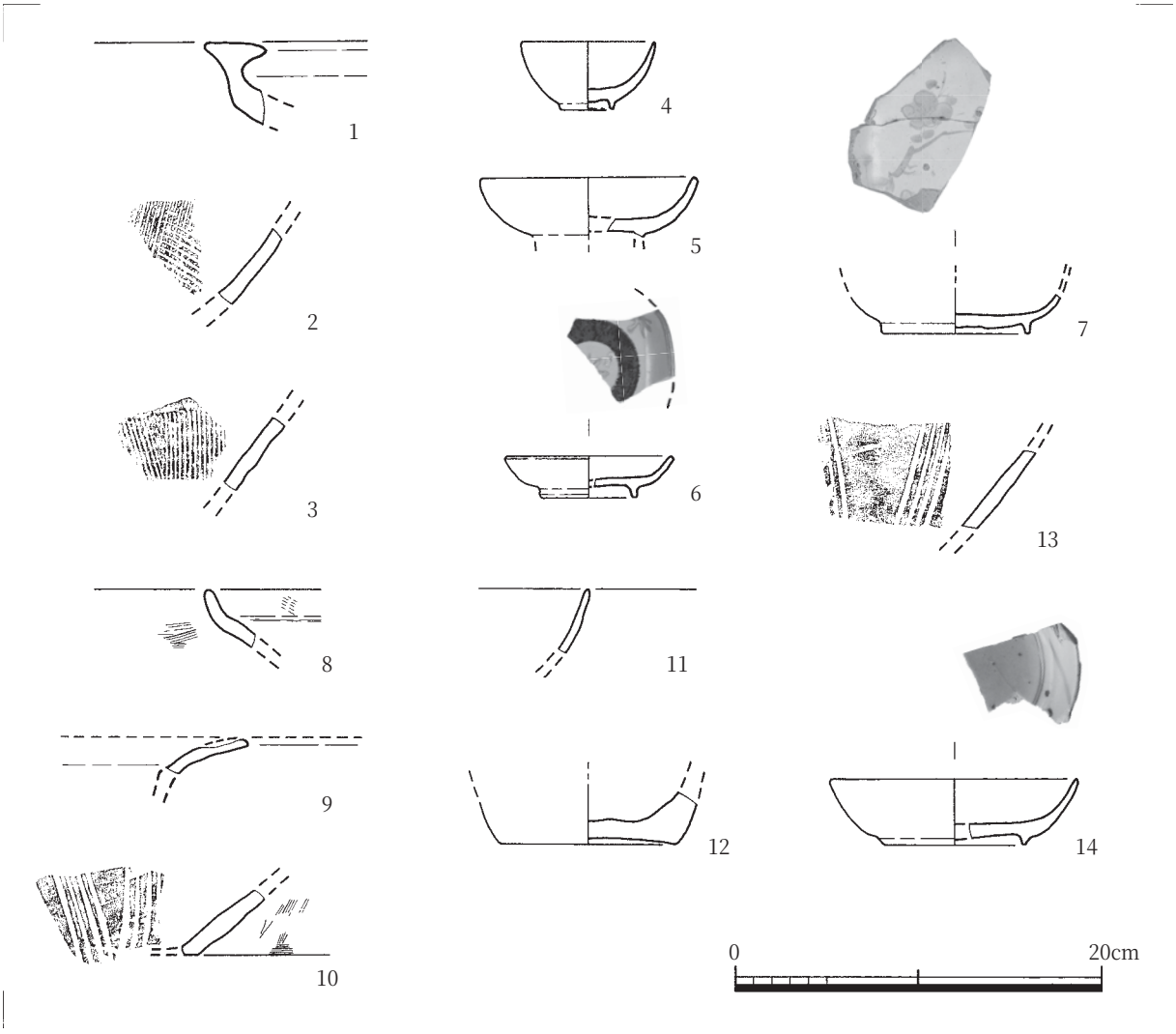
検出当初１条の溝状遺構として５号溝状遺構として番号を振ったが、土層断面の観察や平面形態から２条の溝であることが確認されたため５号溝をａ・ｂに分けている。４号溝状遺構に切られ、５－ａ号溝状遺構を切る。直線的に走行する溝状遺構で、延長 13.30 ｍ、幅は 60 ㎝、深さは最大で 32 ㎝を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は黒褐色土を主体とする。遺物は出土していない。

６号溝状遺構（ＳＤ６）（第３図、図版１・2）

調査区東側に位置し、屈曲しながら走行し、その他の溝状遺構とは方向性を異にする。延長で 5.30m を検出し、幅 65 ㎝、深さ最大 40 ㎝を測る。断面は逆台形を呈し、埋土は黒褐色土を主体とする。

出土遺物（第４図、図版４）

８は瓦質の釜で、丸く張った肩部を有し、口縁部は内傾して立ち上がる。９は瓦質で、口縁部が屈曲して開く鉢状の器形になるであろう。10 は瓦質の擂鉢。４本１単位のすり目をもつ。11 は龍泉窯系青磁碗の破片。12 は陶器の小型甕と考えられ、よく焼き締められている。これらの遺物の下限から 14 世紀後半～ 15 世紀中ごろまで機能していた溝状遺構とみられ、検出された溝状遺構の中では最も古い。



第４図　出土遺物（Ｓ＝１／４）

その他の遺物（第４図）

遺構出土以外の遺構検出時や撹乱坑から出土した遺物を掲載している。

13 は瓦質の擂鉢で、４本１単位のすり目を施す。現代までの遺物を含む攪乱坑からの出土で混入品である。14 は磁器の染付皿で、口径 13.4 ㎝に復原される。内面に草花文をあしらう。遺構検出時のもの。

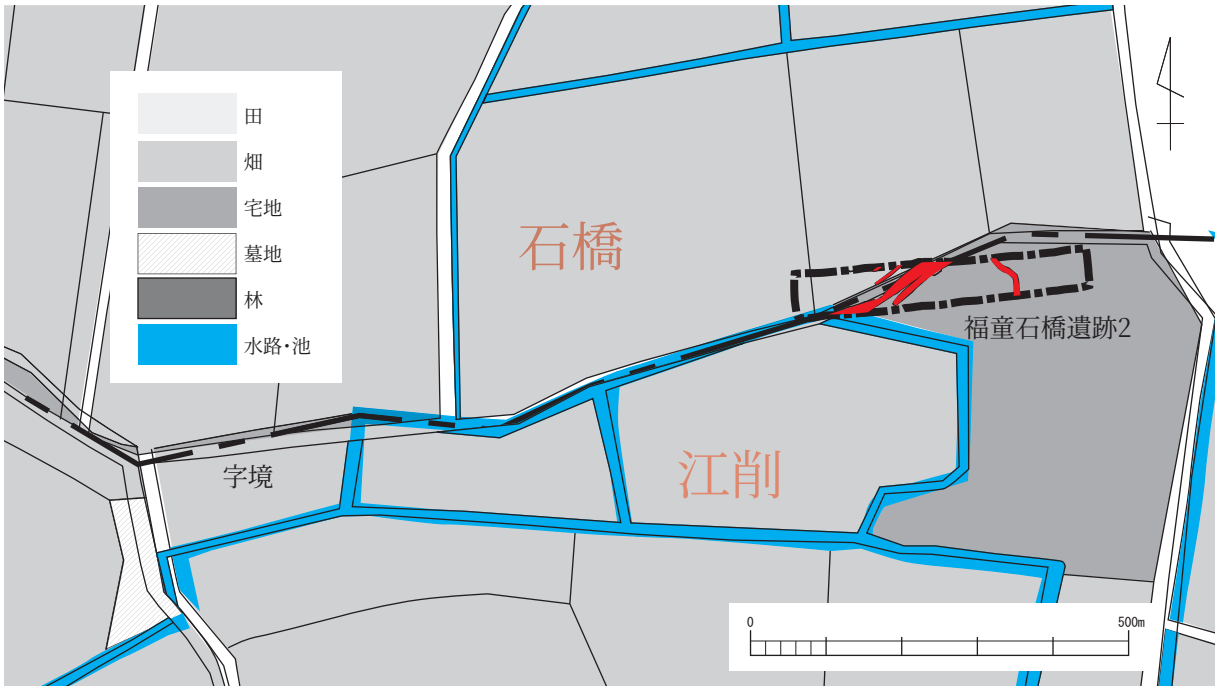
第４章　まとめ

福童石橋遺跡２で検出した主な遺構は、溝状遺構である。検出した７条のうち６条は、北から 65 度前後東に傾き直線的に走行する共通した方向性をもっている。これらの溝状遺構には先後関係が存在し、先後関係上最も古いものは５－ａ号溝状遺構である。

これら同一方向性をもつ溝状遺構群の性格であるが、この周辺は、昭和 30 年代前半に耕地整理が施工されているため、それ以前の耕地の区画と現在とでは大きく異なっている。そこで明治 24 年作成の旧字図を参照して今回の調査区を重ねてみたところ、北に位置する小字である「石橋」と南に位置する小字の「江削」との小字界と今回調査で明らかになったこの溝状遺構群の方向性がほぼ合致していることがわかる（第５図）。旧字図ではこの小字界に沿って水路の表示も確認される。

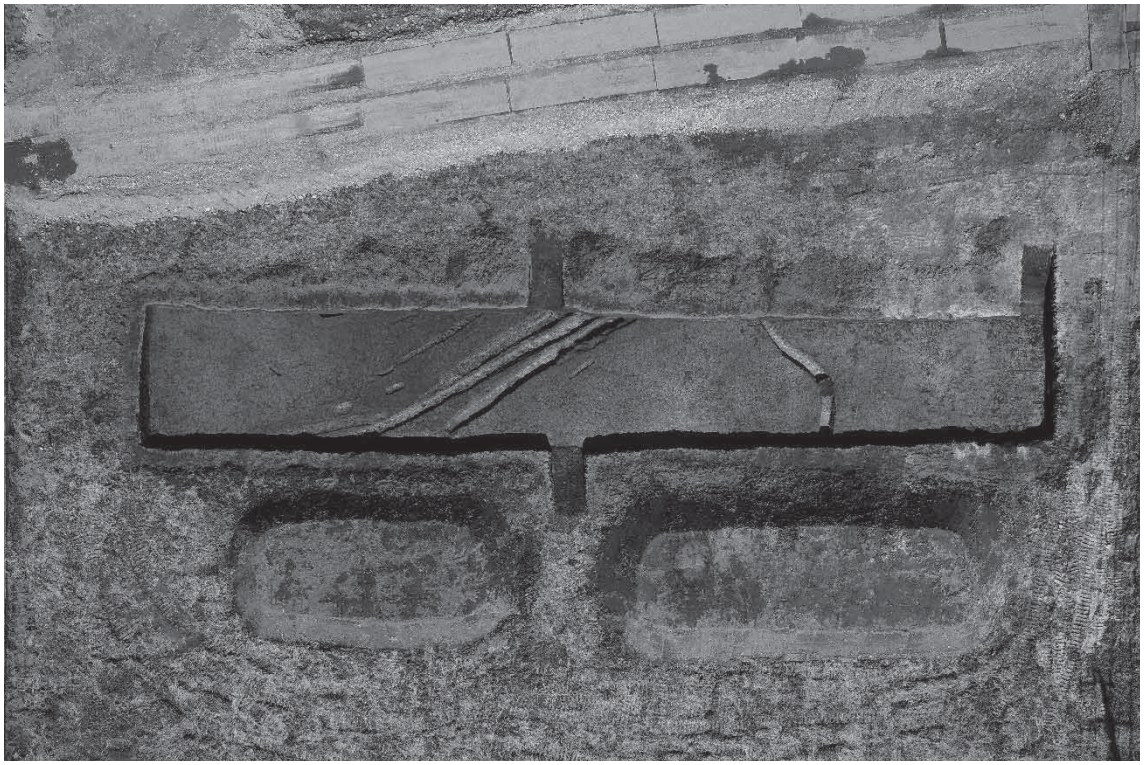
従って今回検出された同一方向の溝状遺構は、小字界を意識されて配された用水路の可能性が考えられる。さらに先後関係上最も古い５－ａ号溝状遺構出土遺物により、18 世紀後半以降に埋没した用水路と考えることが出来るが、小字が設定された時期の上限は不明と言わざるを得ない。

大字はその成り立ちから、おおむね地域共同体を単位としているのに対して、小字は田畑のような耕地、山林、採草地などといった経済的な土地のまとまりを単位とすることが多い。今回の発掘調査では、走行性の共通した溝状遺構群が検出され、小字境に関連した遺構と考えられ、福童地区における小字の発生や耕地利用を知るうえでの一つの資料を提示することが出来た。

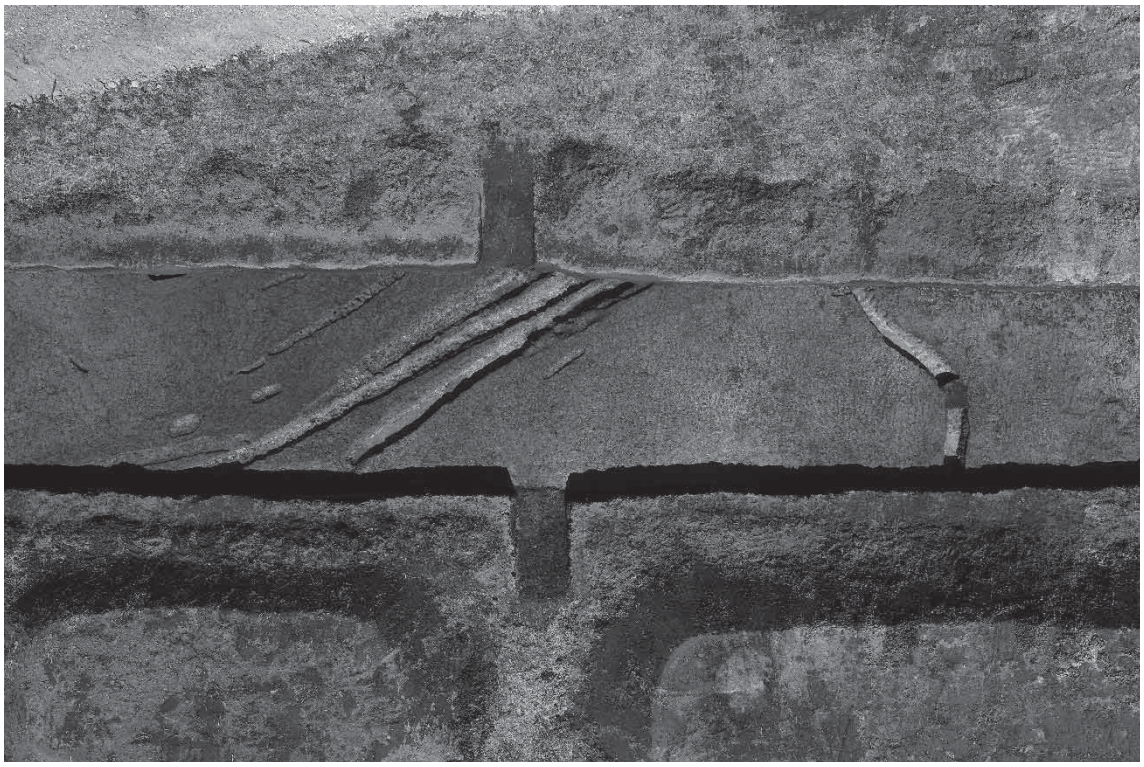


第５図　旧字図と調査区位置図（S ＝ 1 ／ 1,000）

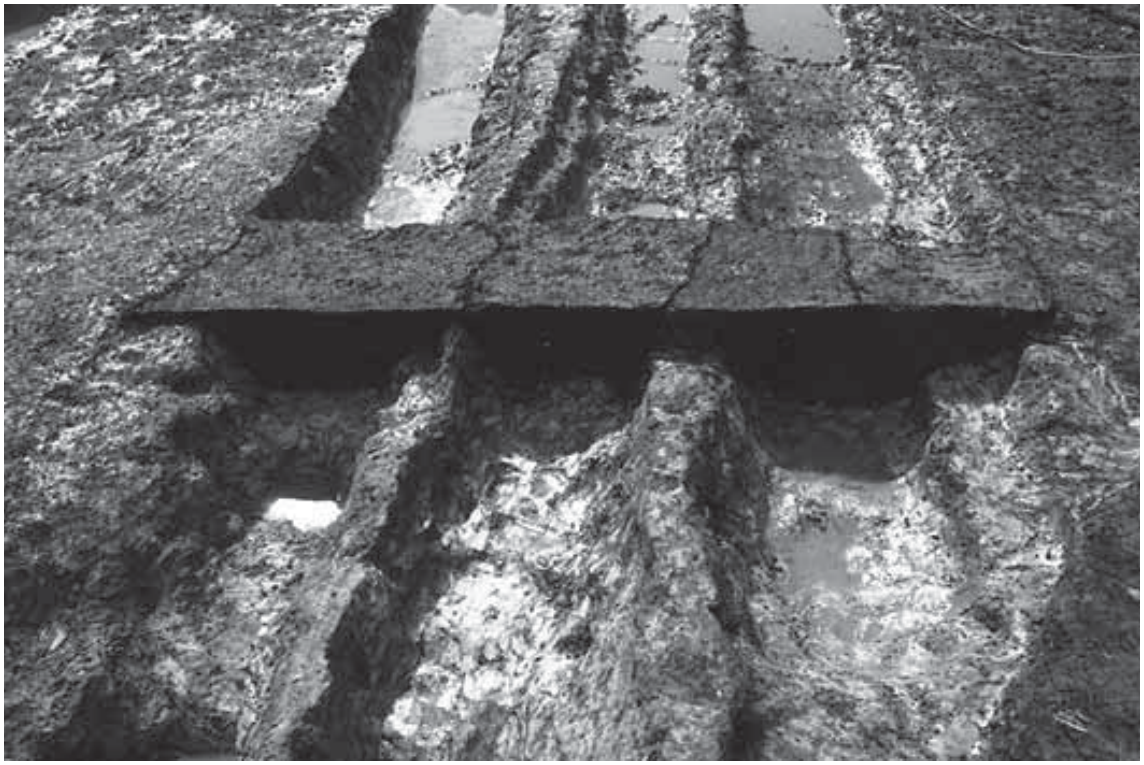
図版１



①　調査区全景（真上から）



②　溝状遺構近景（真上から）



①　３・４・５－ａ・５－ｂ号溝状遺構土層（東から）

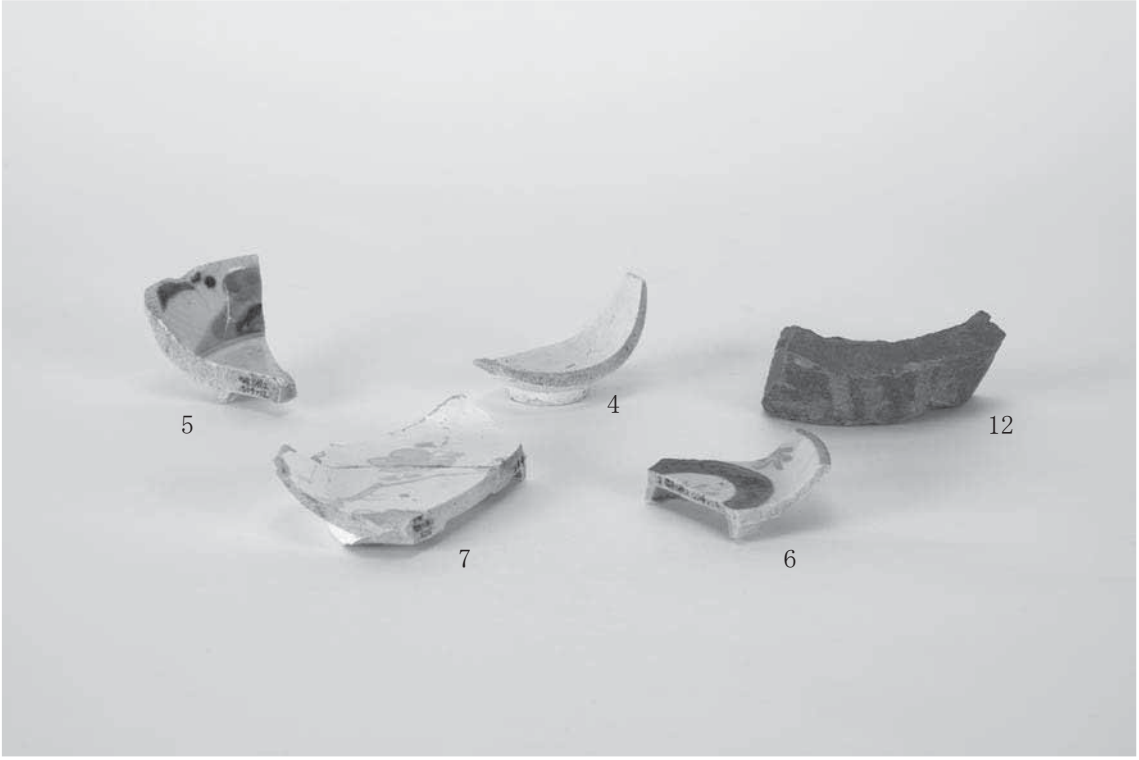
②　６号溝状遺構土層（北から）

図版３

①　福童石橋遺跡及び福童石橋遺跡２全景（真上から）

②　調査区より南を望む

① 調査区より東を望む



② 出土遺物

報告書抄録

<table>
<tr><td>ふりがな</td><td colspan="8">ふくどういしばしいせき２</td></tr>
<tr><td>書名</td><td colspan="8">福童石橋遺跡２</td></tr>
<tr><td>巻次</td><td colspan="8"></td></tr>
<tr><td>シリーズ名</td><td colspan="8">小郡市文化財調査報告書</td></tr>
<tr><td>シリーズ番号</td><td colspan="8">第３６３集</td></tr>
<tr><td>編著者名</td><td colspan="8">柏原孝俊</td></tr>
<tr><td>編集機関</td><td colspan="8">小郡市教育委員会</td></tr>
<tr><td>所在地</td><td colspan="8">〒838-0198　福岡県小郡市小郡 255-1　☎0942-72-2111</td></tr>
<tr><td>発行年月日</td><td colspan="8">2024 年 3 月 31 日</td></tr>
<tr><td rowspan="4">所収遺跡名</td><td rowspan="2">所在地</td><td colspan="2">コード</td><td rowspan="2">北緯</td><td rowspan="2">東経</td><td rowspan="2">調査期間</td><td rowspan="2">調査面積</td><td rowspan="2">調査原因</td></tr>
<tr><td>市町村</td><td>遺跡番号</td></tr>
<tr><td rowspan="2">福童石橋遺跡2</td><td>福岡県
小郡市
福童</td><td>40216</td><td></td><td>33°
38′
39″</td><td>130°
54′
36″</td><td>2023.01.30
～
2022.03.13</td><td>235 ㎡</td><td>宅地造成</td></tr>
<tr><td>種別</td><td colspan="2">主な時代</td><td colspan="2">主な遺構</td><td>主な遺物</td><td>特記事項</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">中世・近世</td><td colspan="2">溝状遺構</td><td>陶磁器
土師器</td><td></td></tr>
<tr><td>要約</td><td colspan="8">検出された溝状遺構のうち、走行性の共通した 1～5－a・5－b 号溝状遺構の方向性は、福童地区の小字境にほぼあたることから、小字境に配された用水路である可能性が考えられる。</td></tr>
</table>

福童石橋遺跡 2
小郡市文化財調査報告書第 363 集
2024 年 3 月 31 日
発行　小郡市教育委員会
福岡県小郡市小郡 255－1
印刷　片山印刷（有）
福岡県小郡市祇園 1－8－15